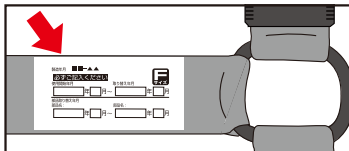


- 物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。
- ベルト・ランヤード・パッドに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。
- フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。
- 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使い方によって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、フルハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えしてください。

- 使用を開始した年月を背中ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。
- ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。



10. 性能

項目		「墜落制止用器具の規格」
肩・背中・腰・腿・胴ベルト		15.0kN 以上
フック・環類		11.5kN 以上
フック外れ止め装置		1.0kN の力を加えた時、隙間にφ3mmのピンゲージが通らないこと。
巻取器		11.5kN 以上
肩/腿ベルト用バックル連結部		6.0kN 以上
胴ベルト用バックル連結部		8.0kN 以上
ストラップ・平ロープ・絞索・ショックアブソーバ		15.0kN 以上
ショックアブソーバの衝撃吸収性		重さ100kgもしくは130kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に、衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。
フルハーネス 本体	引張強度	順方向引張強度15.0kN 以上
		逆方向引張強度10.0kN 以上
	落下強度	脚部および頭部から先に落下させた時に、トルソーを保持すること。 落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。 ベルトの著しい裂け、縫製部の破断、金具の破損なきこと。

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>

TEL 0120-125577



受付時間：
月曜日～金曜日
9:00～17:00
(12:00～13:00
祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小沢3-4-3
<https://jpn.tajimatool.co.jp>

保管用 第2版 57095
HA / HS

ご使用前に必ずお読みください。

Tajima

「墜落制止用器具の規格」適合品

取扱説明書

フルハーネス型 タイプ1

このたびは、《墜落制止用器具フルハーネス型 タイプ1》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる墜落制止用器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

△危険 △警告 △注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社 HP にも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス：<https://jpn.tajimatool.co.jp>

(HP トップページにある「取扱説明書」をクリックしてください)

この墜落制止用器具はフルハーネス型 タイプ1(1本つり)用です。

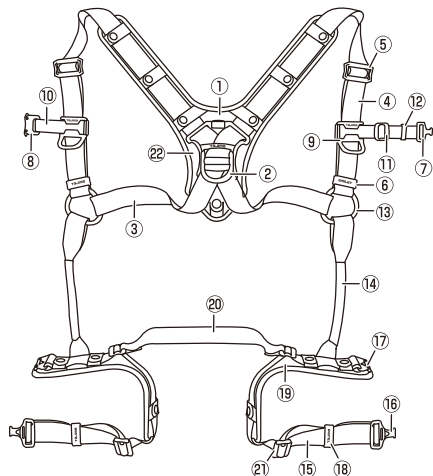
●目次

1.用途	2～3	5-2 フックの操作方法	15
2.フルハーネス本体の構造および各部名称	4～5	5-3 フックの使用法	16
3.装着方法	6	5-4 フックハンガーの使い方	16
3-1 装着方法	6～7	6.必ずお守りください	
3-2 バックルの使用方法	7	(使用上の注意事項)	16～20
3-3 ベルトの長さ調節	8～9	7.点検と廃棄の基準	21～23
3-4 パッドの取付け方法	10～11	8.保管と手入れの仕方	23～24
4.フルハーネス型ランヤードの構造		9.交換の目安（耐用期間）	24
および各部名称	12～13	10.性能	24
ストラップ長さの調節方法	14		
5.フルハーネス型ランヤードの取付け方法			
5-1 フルハーネス型ダブルランヤードの			
固定方法	15		

3

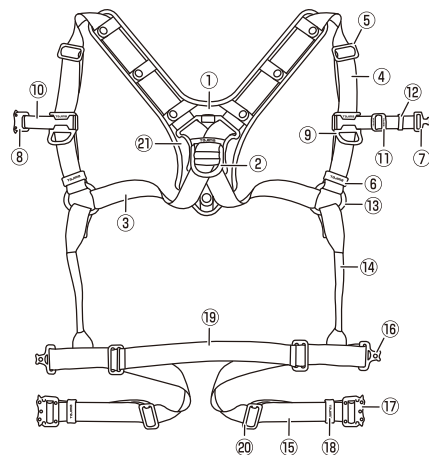
2.フルハーネス本体の構造および各部名称

ハオルハーネス HA



- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①肩パッド Y型 | ⑪胸ベルト調節バックル |
| ②D環 | ⑫ゴムベルトストッパー (小) |
| ③背中ベルト | ⑬アクティブリング |
| ④肩ベルト | ⑭スマートバスベルト |
| ⑤肩ベルト調節バックル | ⑮腿ベルト |
| ⑥ゴムベルトストッパー (大) | ⑯腿バックル (凸側) |
| ⑦胸バックル (凸側) | ⑰腿バックル (凹側) |
| ⑧胸バックル (凹側) | ⑱ゴムベルトストッパー (大) |
| ⑨フックハンガー | ⑲腿パッド |
| ⑩胸ベルト | ⑳骨盤ベルト |
| | ㉑腿ベルト調節バックル |
| | ㉒バックパッド |

ハオルハーネス HS



- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①肩パッド Y型 | ⑪胸ベルト調節バックル |
| ②D環 | ⑫ゴムベルトストッパー (小) |
| ③背中ベルト | ⑬アクティブリング |
| ④肩ベルト | ⑭スマートバスベルト |
| ⑤肩ベルト調節バックル | ⑮腿ベルト |
| ⑥ゴムベルトストッパー (大) | ⑯腿バックル (凸側) |
| ⑦胸バックル (凸側) | ⑰腿バックル (凹側) |
| ⑧胸バックル (凹側) | ⑱ゴムベルトストッパー (大) |
| ⑨フックハンガー | ⑲骨盤ベルト |
| ⑩胸ベルト | ㉑腿ベルト調節バックル |
| | ㉒バックパッド |

3. 装着方法

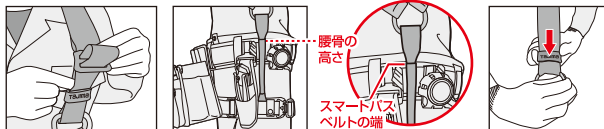
3-1. 装着方法

※イラストはHAシリーズです。HSも同じ装着方法です。

- ①フルハーネスの胸バックル、腿バックルを外した後、腰周りの上からリュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれていたり、骨盤ベルトが腰周りの道具に引っ掛かっている場合は直してください。



- ②肩の調節バックルを使って、スマートパスベルトが腰骨の高さになるように、肩ベルトの長さを調節する。調節後、ゴムベルトストッパー（大）をアクティブリング側に移動させる。

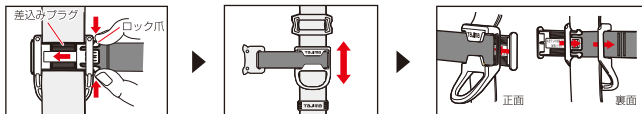


肩ベルトの長さ調節は8ページをご覧ください。

- ③スマートパスベルトを腰周りの道具の間に差し込む。

- ④フックハンガーの差込プラグを引き抜き、上下にスライドさせ、胸ベルトが胸の中心付近の高さになるように調節し、位置が決まったら差込プラグを戻す。

- ①ロック爪をつまみ、矢印の方向に差込プラグを引き抜く
②胸ベルトが胸の中心付近の高さになるように調節する
③フックハンガー本体との間にベルトを挟むように差込みプラグを差し込む。



※胸ベルトのループは肩ベルト調節バックルを乗り越えることができます。（肩ベルト調節バックルより上にも移動可）
※差込みプラグには「ベルト1枚用」の面と「ベルト2枚用」の面があります。固定する場所のベルトの枚数に応じて使い分けてください。

- ⑤胸バックル（凸側）を胸バックル（凹側）に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調節する。

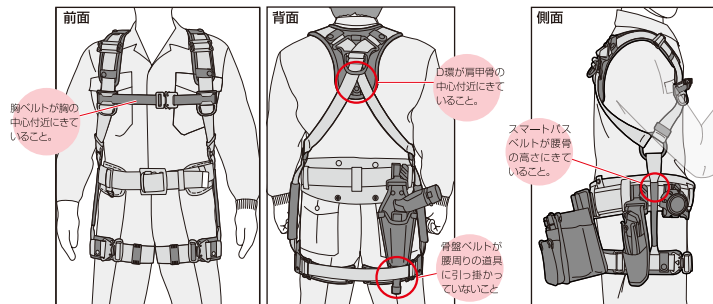


- ⑥腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）に差し込み固定。その後、太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調節する。



腿ベルトの長さ調節は9ページをご覧ください。

＜正しい装着例＞ 各ベルトが左右同時にサイズ調節がされていること。



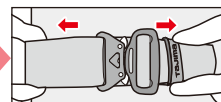
3-2. バックルの使用方法

腿バックル

連結する時

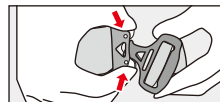


- ①片方の腿バックル（凹側または凸側）を持ち、反対側の腿バックル（凹側または凸側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

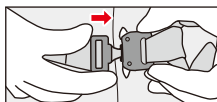
外す時



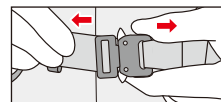
- 両側のロック解除レバーを同時に押すと腿バックルが外れます。

胸バックル

連結する時

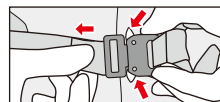


- ①片方の手で胸バックル（凸側）を持ち、胸バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

外す時



- 両側のロック解除レバーを同時に押すと胸バックルが外れます。

3-3.ベルトの長さ調節 ※イラストはHAシリーズです。HSも同じ調節方法です。

▼ 装着方法、ベルトの長さ調節方法を動画でもご覧いただけます。

装着方法



ベルトの長さ調節方法



肩ベルト

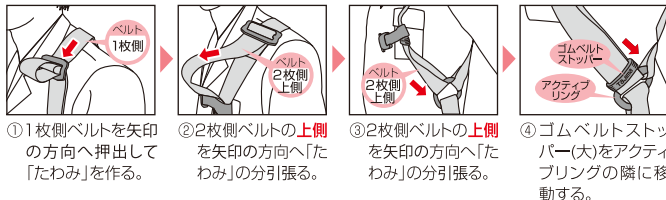
* 1 フックハンガーの差込みプラグを引き抜いてから、肩ベルトの長さを調節してください。

差込みプラグの引き抜きは6ページをご覧ください。

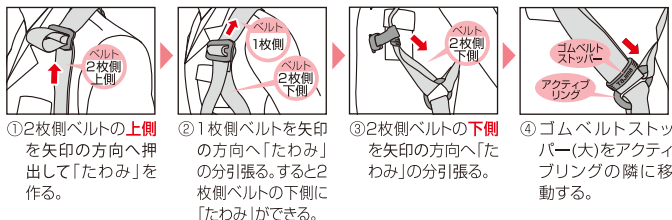
* 2 肩パッド Y型の肩パッド部のボタンを外してから、肩ベルトの長さを調節してください。

肩パッド部の着脱は11ページをご覧ください。

ベルトを短くする場合

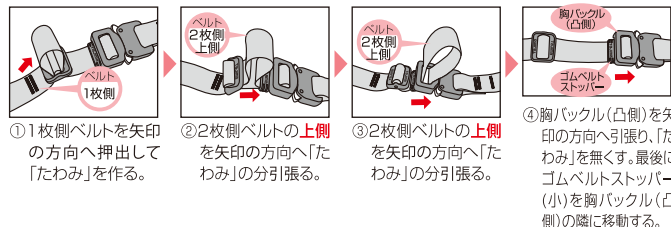


ベルトを長くする場合

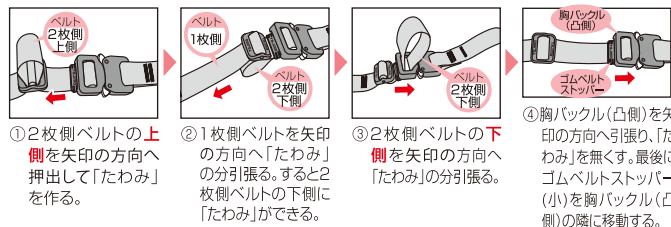


胸ベルト

ベルトを短くする場合

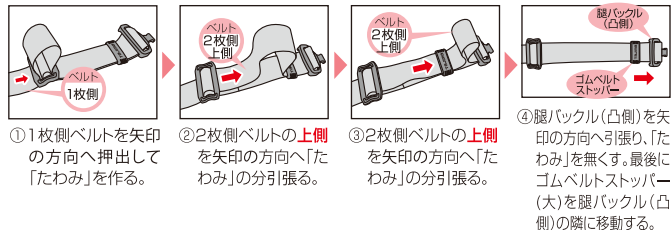


ベルトを長くする場合

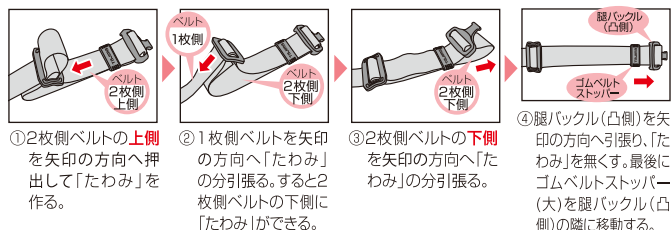


腿ベルト

ベルトを短くする場合



ベルトを長くする場合



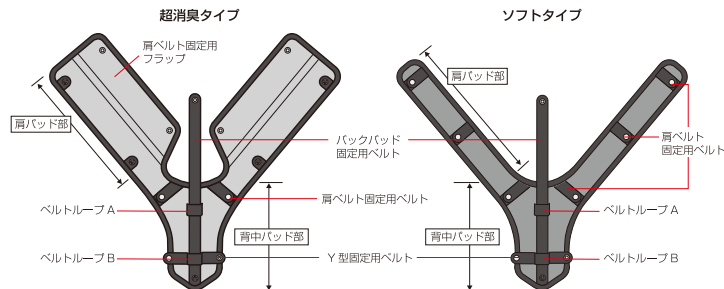
3-4. パッドの取付け方法

動画はこちら▶

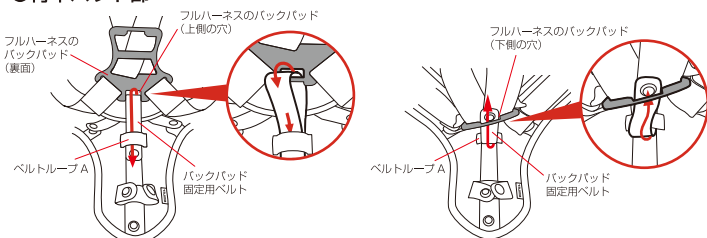


肩パッド Y型

●肩パッド Y型 各部名称

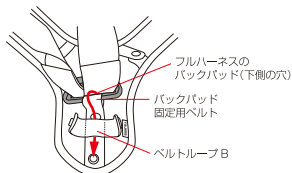


●背中パッド部

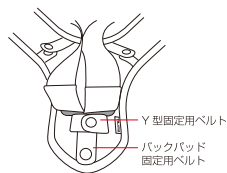


①バックパッド固定用ベルトを矢印の方向でフルハーネスのバックパッド上側の穴とベルトループ A に通す。

②バックパッド固定用ベルトを矢印の方向でフルハーネスのバックパッド下側の穴に通す。



③バックパッド固定用ベルトをベルトループ B に通す。

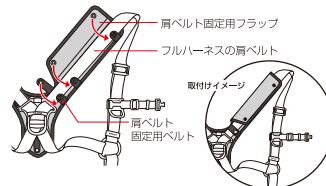


④バックパッド固定用ベルトのボタンを留める。Y型固定用ベルトのボタンを留める。

●肩パッド部

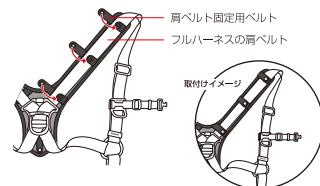
超消臭タイプ

肩ベルト固定用フラップ、肩ベルト固定用ベルトのボタンを外し、フルハーネスの肩ベルトを通してボタンを留める。反対側も同様の手順で固定する。



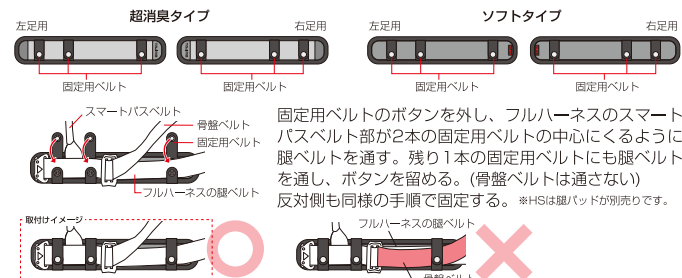
ソフトタイプ

肩ベルト固定用ベルトを外し、フルハーネスの肩ベルトを通してボタンを留める。反対側も同様の手順で固定する。



腿パッド

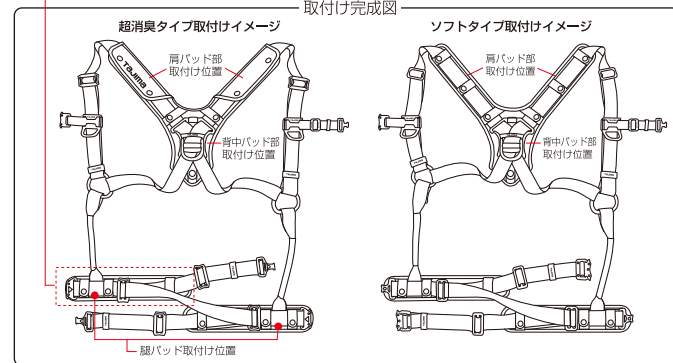
●腿パッド 各部名称



固定用ベルトのボタンを外し、フルハーネスのスマートパスベルト部が2本の固定用ベルトの中心にくるように腿ベルトを通す。残り1本の固定用ベルトにも腿ベルトを通し、ボタンを留める。(骨盤ベルトは通さない) 反対側も同様の手順で固定する。※HISは腿パッドが別売りです。



取り付け完成図



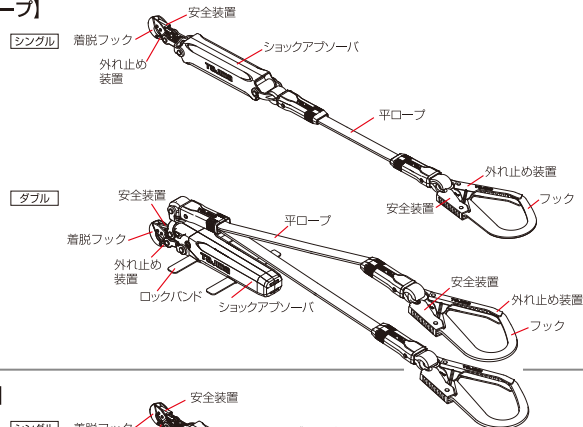
4. フルハーネス型ランヤードの構造および各部名称

使用するランヤードについて

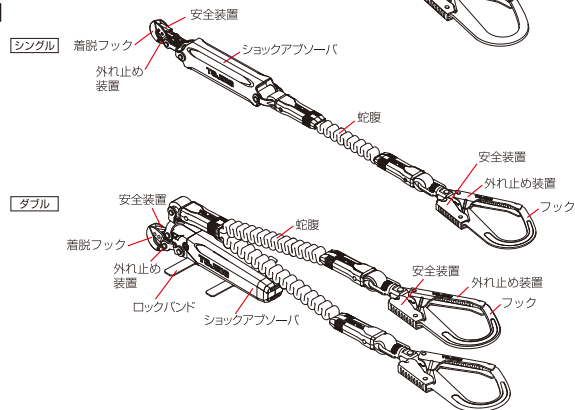
フルハーネスに使用するランヤードは、必ずフルハーネス型ランヤードまたはフルハーネス型・胴ベルト型兼用タイプをご使用ください。上記ランヤード以外を組合せた場合、墜落制止時の衝撃荷重が「墜落制止用器具の規格」に定められた4kNを超える場合があります。

またフルハーネスと組み合わせるフルハーネス型ランヤードは当社製品をご使用いただくことを推奨します。

【平ロープ】

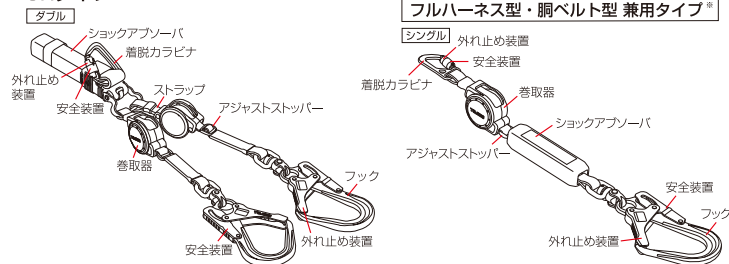


【蛇腹】



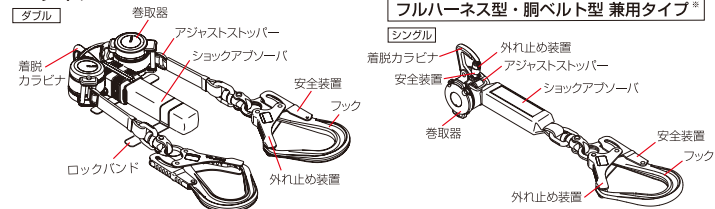
【巻取(ロック装置なし)】

CRタイプ



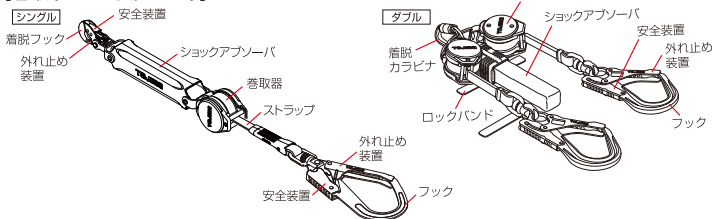
※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

KRタイプ

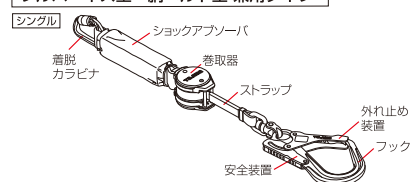


※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

【巻取(ロック装置あり)】 VRタイプ



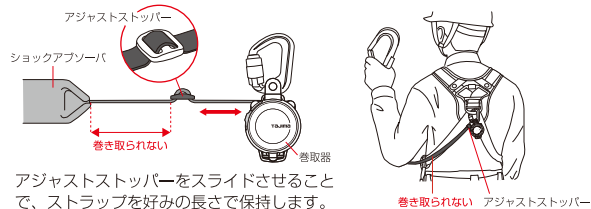
フルハーネス型・胴ベルト型 兼用タイプ*



※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

ストラップ長さの調節方法

- **アジャストストッパー** KRタイプ・CRタイプ共通 *イラストはKRタイプです。CRタイプも調節方法は同じです。
ストラップを常に決まった長さに固定したい時に便利な機能です。

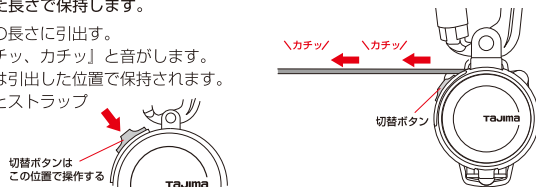


KRタイプの【シングル】では作業シーンに合わせて【オートストップ】と【フリー】の2つの巻取機構を選択できます。

● オートストップ

ストラップを引出した長さに保持します。

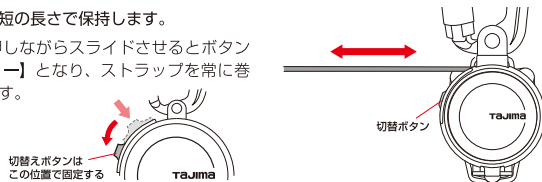
- ① ストラップを好みの長さに引出す。
引いている間『カチッ、カチッ』と音がします。
- ② ストラップの長さは引出した位置で保持されます。
- ③ 切替ボタンを押すとストラップを巻き取ります。



● フリー

ストラップを常に最短の長さに保持します。

切替ボタンを下に押しながらスライドさせるとボタンが固定されて【フリー】となり、ストラップを常に巻き取る状態になります。



※フルハーネス型ランヤードとしてご使用の場合は、【フリー】機構でご使用ください

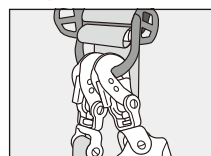
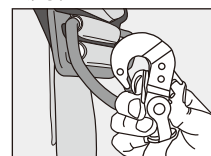
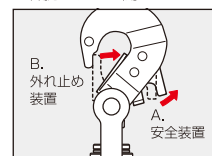
動画はこちら▼



5.フルハーネス型ランヤードの取付け方法

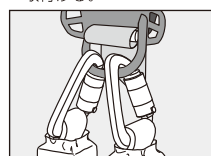
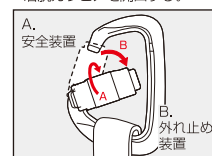
- ① A.安全装置を引上げ、
B.外れ止め装置を押して
着脱フックを開口する。
- ② 外れ止め装置を押しながら
フルハーネスのD環に取
付ける。
- ③ シングルランヤードを2本
取付ける場合は図のように
取付ける。

着脱フック



- ① A.安全装置を返しロックを解除し、B.外れ止め装置を押して
着脱カラビナを開口する。
- ② 外れ止め装置を押しながら
フルハーネスのD環に取
付ける。
- ③ シングルランヤードを2本
取付ける場合は図のように
取付ける。

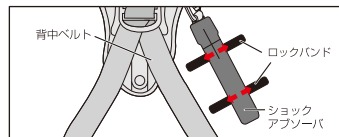
着脱カラビナ



危険 外れ止め装置がしっかりロックされているか、ご確認の上ご使用ください。

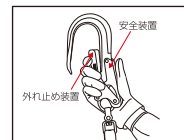
5-1.フルハーネス型ダブルランヤードの固定方法

- ① 上記方法でフルハーネスにフルハーネス型ダブルランヤードを取付け後、ショックアブソーバの裏側のロックバンド2か所をはがす。
- ② はがしたロックバンドをフルハーネスの背中ベルトに巻付け、ショックアブソーバを固定する。



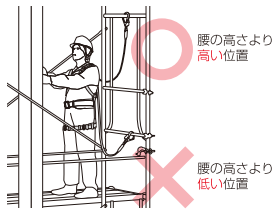
5-2.フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。
開口します。



5-3.フックの使用法

フックは腰の高さより高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



5-4.フックハンガーの使い方

フックハンガーはフック休止専用部品です。

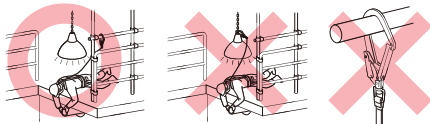


6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

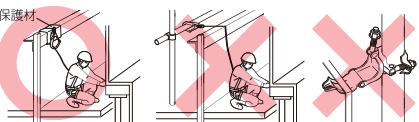
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。電線線等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。



●ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

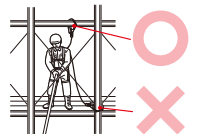
ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。

墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。



●フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼすおそれがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。

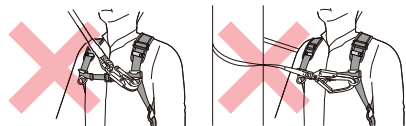


●ランヤードをフルハーネスのD環に取付ける際は、フルハーネス装着前に取付けてください。装着後に取付ける場合は別の人に確実に取付けてもらってください。

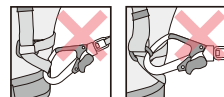
●本製品を墜落制止目的でご使用になる場合、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。絶対に胴ベルト型ランヤード、ワークポジショニング用ロープ（U字つり）、補助ロープ（移動用）は使用しないでください。

●フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。

フックハンガーは使用していないランヤードのフックを吊り下げるためのものです。フックハンガーをD環等強度のある金具の代わりとして使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故につながる危険性がありますので、絶対にしないでください。



●アクティブリングやフルハーネスベルトにフックは絶対に取付けしないでください。



●改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

●組合わせて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

●フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにフックの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているか確認の上でご使用ください。

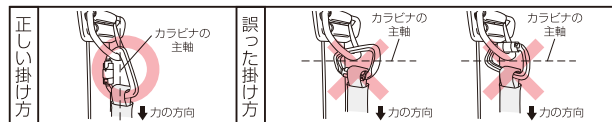
	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

危険 誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれたり部材で押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

●着脱カラビナをフルハーネスのD環に正しく掛けてください。

外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように着脱カラビナの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。

着脱カラビナが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。



誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれたり部材で押されたりして着脱カラビナがフルハーネスのD環から外れたり、着脱カラビナ本体が変形して墜落するおそれがあります。

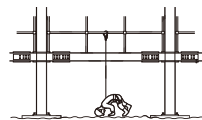
●どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください。

（ランヤード2本をご使用の場合）

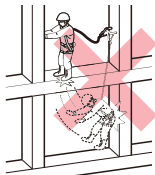
どちらか一方のランヤードを掛ける前にもう一方のランヤードを外すと、構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

●墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

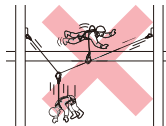


●ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。



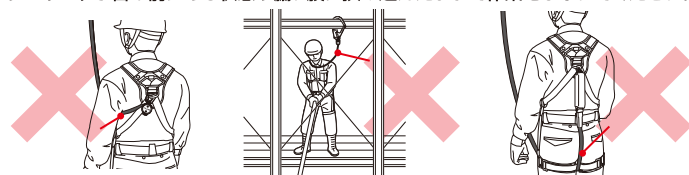
●ランヤードは振り子状態にならないように位置に取付けてください。

●親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

●ランヤードが首の前面にある状態や脇、股に挟み込んだままで作業をしないでください。



●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

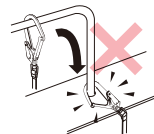
下図のように環類が変形・破損していれば、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。



外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷のおそれがあります。

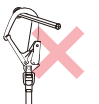
●フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けないでください。



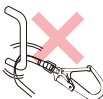
●フックをステップボルトに掛けないでください。

墜落制止時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損したり、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



●屈曲としごき加わる使用はしないでください。

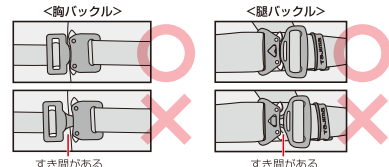
縫製部、縫製部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



●2丁掛け仕様の場合、掛け替え時以外の通常使用時は、両方のフックを掛けた状態で作業しないでください。

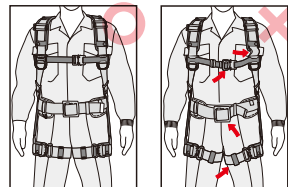
墜落制止時にショックアブソーバが正常に機能しない場合があります。

●フルハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。



●必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、フルハーネスが体から抜けて重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引っかかり転倒するおそれがあります。



- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

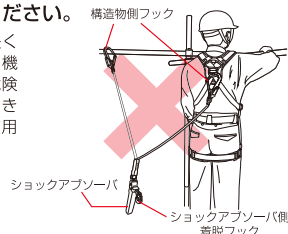
-  雨の日は感電に注意してください。

- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください。

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。
なお、使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取器のロック装置が作動しないおそれがあります。
操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- ショックアブソーバ側の着脱フックおよび着脱カラビナをフルハーネスの背中D環に取付けてご使用ください。

誤った取付け方法でご使用された場合、落下距離が長くなるばかりか墜落制止時にショックアブソーバが全く機能せず衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼす危険性があります。また十分な強度が得られず墜落制止できないおそれがありますので、正しい取付け方法でご使用ください。



注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 墜落制止用器具に体重を掛けて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する製品です。

- 丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取式タイプについてはストラップを巻取器に収納してください。

- 巻取器には急移動でロックがかかる製品がありますので注意してください。

- フルハーネス、フルハーネス型ランヤードを組合わせてご使用になる場合は、当社製品を組合わせていただくことを推奨します。

- 墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋に入れてください。

- 墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

7. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において1項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始業点検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。

点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により1カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

- 墜落制止用器具点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

○：異常なし
×：異常あり
年 月 日

点検項目		廃棄基準	判定
フルハーネス	両 耳	摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
	幅の中	焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
		摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
	ベルト	切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
		薬品・塗料	2mm以上付着しているもの
		切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
		ねじれ・曲り	ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの
	全 体	磨耗	腰袋などに隠れるベルト部分が摩耗しているもの
		布製保護カバー	布製保護カバーが著しく破断または脱落しているもの
		縫製部	縫糸
	バックル	変形	1カ所以上切断しているもの
		摩滅・傷	リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの
			深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
			リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの
			ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)
	環類	錆	全体に錆が発生しているもの
		ばね	折損、脱落しているもの
		変形	目視で確認できる変形のあるもの
	その他	摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
		錆	全体に錆が発生しているもの
胴ベルト	両 耳	摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの
	幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの
	全 体	薬品・塗料	3mm以上付着しているもの
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの
	環類	変形	目視で確認できる変形のあるもの
		摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの

点検項目			廃棄基準	判定
胴ベルト	ベルト	全 体	焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
			先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの
			先端止めの脱落	先端止めが脱落してベルトがはつれているもの
		縫製部	縫糸	1ヵ所以上切断しているもの
	バックル		変形	締まり具合が悪いもの
		摩滅・傷		リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの
				深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
				リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの
				ベルトの啗合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)
		錆	全体に錆が発生しているもの	
フック		ばね	折損、脱落しているもの	
		変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの	
		摩滅・傷	リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
			深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	
		ばね	折損、脱落しているもの	
		より戻し	より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの	
	巻取器		変形	ストラップの巻き込み、引出しができないもの
			取付けねじ	巻取器の取付けねじが脱落しているもの
		破損・傷	巻取器が破損しているもの	
		ロック装置	巻取器のロック機能が働かなくなったもの	
		樹脂カバー(ケース)	樹脂カバー(ケース)が破損しているもの	
		リベット	リベット頭部が1/2以上摩滅しているもの	
			リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
ストラップ 平ロープ		錆	金属部に錆が発生しているもの	
	摩耗・擦り切れ		芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
				使用開始から 2 年が経過しているもの
			切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの
			焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの
			薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの
	縫製部保護力バー		縫製部保護力バー	縫製部保護力バーが破損または脱落しているもの
			縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの
		摩耗・毛羽立ち		全体的に摩耗・毛羽立ちがあるもの(素手で確認)
			切り傷	1mm 以上の切り傷のあるもの
蛇腹			焼損・溶融	1mm 以上の焼損・溶融しているもの
			薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの
		収縮性	泥・錆・塵などの汚れにより、柔軟性または収縮性が失われたもの	
		縫製部保護力バー	縫製部保護力バーが破損または脱落しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
ショック アブソーバ	薬品・塗料		薬品が付着したもの	
			薬品により変色・溶融箇所があるもの	
			塗料が著しく付着して、硬化したもの	
	切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻付けないでください)		

点検項目		廃棄基準	判定	
リ ン ヤ ー	ショック アブソーバ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの 大きな衝撃荷重を受け作動したもの		
		変形	目視で確認できる変形のあるもの	
	環類	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	

1項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

墜落制止用器具の廃棄基準の一例

フルハート型の ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 両耳  2mm以上の摩耗・切り傷があるもの		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 幅の中  2mm以上の摩耗・切り傷があるもの
	変形  目視で変形が確認できるもの		摩滅・傷  1mm以上の摩滅、傷があるもの
胸ベルトの ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 両耳  3mm以上の摩耗・切り傷があるもの		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 幅の中  3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
	変形  変形し、締まり具合の悪いもの		摩滅・傷  1mm以上の摩滅、傷があるもの
バックル	変形  外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの		摩滅・傷  1mm以上の摩滅、傷があるもの
	変形  外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの		摩滅・傷  1mm以上の摩滅、傷があるもの
巻取器	変形  ストラップの歪み、引出しができないもの		破損・傷  本体が破損しているもの
ストラップ・平ロープ・ショックアブソーバー	切り傷  1mm以上の摩耗、切り傷があるもの		形崩れ 全体に波打っているもの
	摩耗  芯が見えていているもの		縫糸  縫糸が1カ所以上切断しているもの
	薬品・塗料  塗料が付着して硬化しているもの。 また薬品が付着し、変色しているもの		
	損傷・溶融  破れ  カバーが破れてショックアブソーバーが露出しているもの		

8. 保管と手入れの仕方

●墜落制止用器具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
②風通しがよく、湿気のない所。
③火気・放熱体などが近くにない所。
④腐食性物質を置いていない所。
⑤塵埃の少ない所。
⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に
損傷を与えたりしないような場所。